

令和2年度 狭山市教育研究会委嘱

# 学校課題研究紀要

## 条件作文解決能力を 高める国語科授業



埼玉県狭山市立堀兼小学校

〒350-1312 埼玉県狭山市堀兼1234

TEL 04-2959-3343

FAX 04-2959-3398

# 研究の概要

## 研究主題「条件作文解決能力を高める国語科授業」

本校は、狭山市の東部に位置し、四方を畑や林に囲まれた、緑あふれる自然豊かな学校である。明治7年に開校し、現在は12学級児童数256名と、市内では比較的児童数の少ない小規模の学校である。

学校教育目標に「まなぶ きたえる おもいやる」を掲げ、「チーム堀兼」をスローガンとして、地域とともに歩み、ふれあいを大切にした心豊かな学校を全職員で目指している。保護者や地域も、児童の成長していく姿を温かく見守り、それに応えるかのように児童もすくすくと育っている。

平成31年度全国学力学習状況調査の国語の結果を見ると、全国及び埼玉県平均に比べ、特に「書く能力」に課題が見られ、4.1ポイント下回っていた。同様に、平成31年度埼玉県学力学習状況調査の国語の結果を見ると、第5・6学年では埼玉県平均を下回り、中でも「書く能力」については県平均を大きく下回っていた。また、第4学年では、国語全体としては県平均を上回ったものの、「書く能力」については9.8ポイント県平均を下回っていた。このように、本校児童の学力向上に関する最重要課題として「書く能力」が挙げられる。

そこで今年度は、「書くこと」に焦点を当て、校内課題研究として「国語科」を取り上げ、書く能力を向上させるための授業展開について、上記のような主題を設定し研究を進めることとした。研究推進の方針として、指導案（略案）を作成し、全担任が授業を実践すること。また、校長と協議を行うこと。内、123年ブロックと456年ブロックから、それぞれ研究授業と全体協議会を1本ずつ計画し、外部指導者を招聘して指導を仰ぐこと。その他、調査統計と教材開発に取り組んでいくこととした。

※令和2年度の埼玉県学力学習状況調査は、令和2年6月から分散登校が始まり、同時に本研究も始まって間もなくの令和2年6月26日（金）に、第4・5・6学年を対象に実施した。結果から、平成31年度とほぼ同様、「書く能力」の課題が浮き彫りになった。

○研究体制：校長：研究全体の指導・助言、授業者への指導・助言  
教頭：研究の運営、研究環境の整備、研究紀要の作成  
教務主任：研究の推進、授業研究会運営（日程調整等）  
研究主任：研究内容・協議の提案、各研究部への働きかけ  
研究部：授業研究部：研究主題に迫る授業展開を研究  
教材開発部：朝学習や家庭学習で活用する学習教材を開発  
調査統計部：学力調査や意識調査の結果分析と考察

### 研究仮説

発達段階に応じて、読解力、語彙力を高め、児童が記述するよさや自分の言葉でまとめる力の高まりを感じられれば、条件作文解決能力が育つであろう。

### 手立て

(1) 読解力・語彙力を高めるための工夫

例 ・大事な言葉にサイドラインを引かせ、キーワードを確認する。

- ・語彙力を高めるために、辞書をあらゆる場面で使用していく。
- ・児童同士が読み合い、教え合う時間を確保する。

(2) 記述するよさや言葉でまとめる力の高まりを感じさせる工夫

- 例
- ・文作りに慣れさせるため、短文作りや根拠を示す文を書く時間を確保していく。
  - ・作文の書き方を系統的に指導する。
  - ・原稿用紙の使い方を再度確認する。
  - ・よい文章に触れる機会を増やす。

### 外部指導者

狭山市立教育センター 指導主事

### 校内指導者

狭山市立堀兼小学校 校長

### 授業者

1年1組	教諭	2年1組	教諭	2年2組	教諭
3年1組	教諭	3年2組	教諭	4年1組	教諭
4年2組	教諭	5年1組	教諭	5年2組	教諭
6年1組	教諭	6年2組	教諭	くすのき学級	教諭

### 研究スタッフ

教頭	教諭	教諭	養護教諭
教諭	教諭	教諭	



# 第1回授業研究会

## I 授業実践

第2学年1組 国語科学習指導案（略案）

令和2年12月7日

授業者

<b>研究主題</b> ：「条件作文解決能力を高める国語科学習」
<b>単元名</b> ：「お話のさくしゃになろう」
<b>めあて</b> ：中の出来事を考えよう。
<b>提示条件</b>
<b>①作文の型</b> ・主語、述語を使用した文 ・会話文で「」を使う (「話すこと」をあらわすことばを場面によって使い分ける。) ※発展
<b>②基準となる文</b> ・ねずみは、ふくろうにたずねました。(どの人物が何をした。)(主語・述語) ・「秋の木の実は、どこにあるのですか。」(会話文で「」を使って表現する。) ※と、ねずみは聞きました。・と、叫びました。など(場面によって言葉を使い分ける。)
<b>③字数制限</b> ※低学年は省いてもよい。 ・無し
<b>④時間制限</b> ※低学年は省いてもよい。 ・無し
<b>展開と評価</b> ※作文：丸数字
1 前時の学習を振り返り、本時の学習課題を理解する。 2 様子がよくわかる言葉の確認をする。 3 できごと(展開)を書く。 ④ 人物の動きや話すことを入れた文を作る。 【評価規準】主語述語や「」を使って書いている。 A 規準の判断：「話すこと」をあらわすことばが場面によって使い分けることができる。 C 規準の支援：・誰が何をしたのかを口頭で確認し、個に応じた指導をする。 ・例文を紹介し、文章の作り方を指導する。
5 ペアワークを行う。 6 本時の振り返りと次時の学習について理解する。
<b>主な指導の工夫</b>
・作文を書く上で、大切な言葉を掲示。 ・児童の思考をまとめるための学習プリントの作成。
<b>備考</b>

## Ⅱ 研究協議

### 1 グループ協議

(柱1) お話づくりの中で、様子がわかる言葉を使えるようにする手立て（掲示物やプリント、声かけなど）が有効であったか。

- ・場所、生活などをもう少し出した方がよいのか。（膨らませるため）
- ・ドラゴンに引っ張られる児童もいたが、教師が例を出すのは低位の児童にとって有効であった。
- ・①～③の出来事について、プリントでより詳しく書くことができていた。
- ・掲示物を見ながら書いている児童もいた。見直し、見返すのに有効であった。
- ・前の学習を生かして、接続後を取り入れた。
- ・ざっくりと3つの柱を作るプリントがあってもよかった。
- ・掲示物がわかりやすく、児童が確認しながら進めることができた。
- ・教師の声かけで、イメージが広がっていた。（例）流れが強い川
- ・多くの掲示物やヒントがあったが、十分に活用できていない児童もいた。（主語がない文等）

(柱2) お話づくりを通して、児童が自分の言葉でまとめることのよさや楽しさを感じられる展開であったか。

- ・楽しそうな姿が見られた。
- ・自分の言葉でまとめることのよさを、この時間で感じることは難しい。（単元の最後がよいのでは）
- ・「 」の会話文は、様子を詳しくする際に、最後に戻って付け加えるとよいのでは。
- ・キーワードとして、「森」「ふくろう」「どんぐり」の3つを入れることを提示してもよかったかも。
- ・各々のイメージを大切にしつつ、キーワードを絞ってもよかったのでは。
- ・キーワードを入れてあったら、花丸をつけていくのもよい。
- ・友達同士で見せ合い、読み合うこと（ほめてもらう等）がよかった。楽しさや自信につながる。
- ・意欲的にどんどん書き進めている児童が多かった。
- ・交流の時間で読んでもらい、充実感も持てたと思う。
- ・友達からの「返し」があってもよかったのでは。「キラキラ言葉を見つけよう」とか。よい所やヒントをもらって書き直すこともできる。

### 2 指導好評

<授業に関して>

- ・学習指導要領「書くこと」の低学年では、「自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること」とある。ここの「順序」とは、始め—中—終わりなどの構成であり、意識させることが重要である。
- ・3枚の絵から、登場人物の名前・性格・特徴を考える取組が大切。全員が3つの柱を書けている段階からスタートできた。
- ・書く活動時間を、45分間の授業の内どれだけ確保できるか、時間配分を考えて授業を行うことが大切である。
- ・挿絵を見ながらイメージを膨らませている工夫は有効であった。
- ・学習指導要領に、「文の中における主語と述語との関係に気づくこと」とあるが、しっかりと主語と

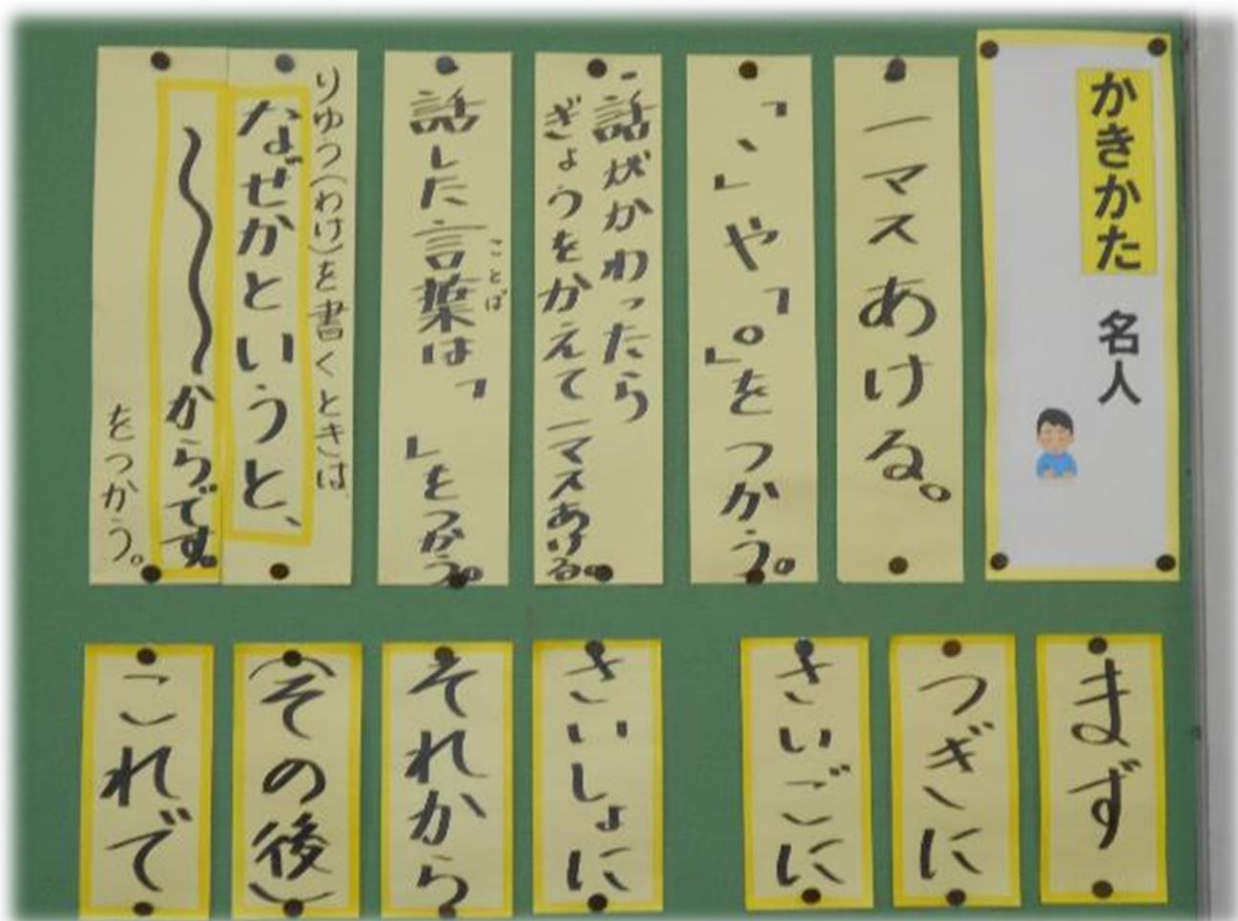


述語を押さえることが大切。読み合う活動では、主語と述語がないと内容がわかりづらい。

- 推敲に関しては、「文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること」とある。書いた文を読み返す時間は大切。但し、ポイントを示して。間違えた字はないかな、この登場人物が言いそうなことかな、つながりはあるかな、など。見直しは、すべての学習につながる。
- 書くことが止まってしまった時、掲示物・教科書・前時のプリントを見返す。自分でやってきたこと（ノート）を見返すように声かけるとよい。「ノートを見てごらん。」
- 互いに書いた文章を読み合い、具体的に感想や意見を述べ合うことで、感性や情緒を養う。自分の文章の内容や表現のよいところを見つけることで、自分に自信が持てる。
- ペア活動を一斉に行ってもよかったのでは。中には、話すことでヒントを得られる児童もいる。ペア活動→アドバイス→自分で直す、までできるとよい。この時間で直す。（翌日だと忘れる）

<研究に関して>

- 今年度、全担任が研究授業を実施したことがすばらしい。まずは自分が授業実践をやってみることが大切。
- 堀兼小学校の児童の「書くこと」「書く力」を伸ばすには、どんな取組が組織として必要なのか。点から線へつなげる推進を。
- 協議の様子からチーム堀兼小を感じる事ができた。引き続き研究を進めていただきたい。



# 第2回授業研究会

## I 授業実践

第5学年2組 国語科学習指導案（略案）

令和3年1月25日

授業者

<b>研究主題</b> ：「条件作文解決能力を高める国語科学習」
<b>単元名</b> ：「この本おすすめします」
<b>めあて</b> ：下書きを読み合い、友達からアドバイスをもらおう。
<b>提示条件</b>
<b>①文章構成</b> ・見出し、本の情報、本の紹介、推薦する理由、呼びかけの5つで構成されているか。
<b>②相手に伝わりやすい文章を書く</b> ・読む相手を考え、難しい言葉、誤字脱字、句読点に気を付け書いているか。
<b>②字数制限</b> ・300字以内
<b>指導計画</b> ※本時：丸数字 1 学習の見通しを持つ。 2 本の内容やおすすめ理由をワークシートに書きだす。→友達と読み合う 3・4 下書きをする。 ⑤ 下書きを友達と読み合う。→助言し合う。 6 清書する。 7 推薦文を読み合い、感想を伝え合う。
<b>展開と評価</b>
1 前時の学習を振り返り、本時の学習課題を理解する。 2 下書きをグループで読みあう ③ 友達の下書きを読み、用紙に助言を書く。（真似したいところは、ワークシートに書いておく） 【評価規準】下書きを読み、相手や目的を意識しながら、書き方について助言している。 A 規準の判断：相手や目的を意識した助言を2つ以上の視点で書いている。 C 規準の支援：分からない言葉があればそれを助言として書くよう伝える。 4 友達に助言の用紙を読んで、渡す。 5 もらった用紙を参考に青鉛筆で下書きを書き直す。 6 本時の振り返りと次時の学習について理解する。
<b>主な指導の工夫</b>
・視覚的に学習の見通しができる掲示資料 ・友達と読み合いもらった助言を、自分の表現に生かすことができるグループ学習

## II 研究協議

### 1 グループ協議

(柱1) お互いの下書きを読み、助言し合う方法が適切であったか。相手や目的を意識しながら具体的に助言する方法は、他にどんな方法があったか。

- ・ 観点が4つ提示されていたのはよかった。分担することで、アドバイスし辛い児童もいたのでは、自由な助言でよかったのでは。
- ・ ある程度、下書きができていたので、アドバイスの仕方が難しかった。(特に低位の児童、限られた時間の中でよくやっていた。よかったところも書けていた。ただ、それぞれの下書きを読み込めなかったかもしれない。
- ・ 例示があると書きやすかったのではないか。
- ・ 1人下書きを数人(グループ)で話し合いながら助言する方法もある。
- ・ もっとシンプルでもよかった。ワークシートにナンバリングなど。
- ・ 班員からカードがもらえているのでよかったが、内容については…。
- ・ 班によっては役割分担がしてあった。コピーがランダムになっていたのでは、全員がコメントをもらえていた。
- ・ 低位の児童へのアドバイスがあってもよい。
- ・ カードに①②…と書いてあればポイントがわかりやすいのでは。
- ・ 字数など、この下書きで清書までいけるかどうか検討する余地がある。
- ・ 自分が困ったことについて、アドバイスをもらう方法はどうか。
- ・ 下書きに直接書き込んでもよかった。
- ・ 友達のコピーはとても有効であった。自分のペースで何度も読める。同じ目的の学年別グループがよかったかも…。(アドバイスが得られやすい)(ワークシートにも学年を明記!)
- ・ ②の誤字、脱字、句読点も大切。でも、相手に伝わることを第一に考えた書き表し方、伝わるような言葉を選ぶアドバイスができるとよかった。
- ・ ①～④について、選択肢があってもよかったかも。
- ・ 「大丈夫です」とは、具体的にどんなところが大丈夫かを書くといい。(褒め言葉を書く)
- ・ 「友達のキラリポイント」はってもよかった。
- ・ 葉っぱの記入例があるとよかった。手が付かない児童がいなくなる。実物投影機をうまく活用。

(柱2) 助言し合う中で(友達の文を読むことで)、児童が自分の文を見直し、まとめることのよさや楽しさを感じられる展開であったか。

- ・ 話し合う中で、さらに助言できたり、低位の児童も納得できたり、話し合いに参加できた。
- ・ 話し合いの雰囲気は、とてもよかったが、深い学びになっているかどうかは…?それぞれアドバイスなので、受け取ったままになってしまう。課題や解決されたことが共有されることがベスト。
- ・ 低位の児童の中には、話し合いに参加できていない児童もいた。観点をシンプルにして、少人数で共有していく。
- ・ アドバイスをもらってすぐに文を直している児童がいた。
- ・ 書いたらチェックするなどのシートがあると、積み重ねがつながるのではないだろうか。
- ・ 文章をよりよくするための時間を確保できたらよい。



- ・グループの人数は3人がベスト。(葉っぱの数, 1人あたりの時間をもう少し多くかけられる。
- ・アンダーライン(コピーに)を引くことで, 葉っぱに書けなくとも書き手に伝わる。アドバイスポイントは, ワークシートにあると後ろの児童にも見やすい。

## 2 指導好評

### <授業に関して>

- ・「相手に伝わりやすいように」もらうよりも書いてあげるがメイン。伝える学年がわかりやすく明記されているとよい。
- ・構成については, ワークシートの工夫により児童がしっかりと理解がされていた。「構成」は高学年で初めて出てくる言葉である(中学年との違い)。改善点としては中学校の学習内容があった。
- ・自分の文章を書く活動時間<友達の文章を読む活動時間
- ・アドバイスカードについて, 役割分担がされていると責任をもって書くことができる。「構成+〇」で, 1人が2つの視点について書くことができるとよかった。
- ・自分の文章を整える時間(6分間)→最後に文章を整える時間がとれてよかった。文章を直す際は, どうしても消しゴムで消したがる。消さずに文章を残した状態でなおすことができるとよい。(今回の青鉛筆のように)
- ・書いた文章は, 書いて終わりではなく, 読んでもらうことができる場があると意欲につながる。

### <研究に関して>

- ・課題や成果(児童の反応, 児童の伸び, 数値等)を共有してみたいかがか。
- ・来年度以降に蓄積できるものは何か? 掲示物, 指導案, 児童の作品等, 来年度以降に引き継ぎ, つなげていくことが大事。
- ・「書く活動」について, 年間指導計画に追記しておくとうい。



## Ⅱ 意識調査

全学年の児童を対象に、1「国語は好きですか」、2「作文は好きですか」の調査を2回実施した。1回目は事前調査として令和2年9月に、2回目は事後調査として令和3年1月に実施した。

### 調査1 国語は好きですか。(↑は、9月と比べて上がったもの)

学年	国語が好き9月	国語が好き1月
1年	75%	73%
2年	71%	76% ↑
3年	73%	75% ↑
4年	67%	76% ↑
5年	47%	54% ↑
6年	66%	68% ↑
くす	100%	100%

### 調査2 作文は好きですか。(↑は、9月と比べて上がったもの)

学年	作文が好き9月	作文が好き1月
1年	81%	73%
2年	58%	51%
3年	53%	58% ↑
4年	53%	46%
5年	19%	17%
6年	32%	31%
くす	50%	100% ↑

### 【考察】

意識調査の結果から、国語学習及び作文学習ともに、学年が上がるにつれ「好き」が減少し、「嫌い」が増加する傾向にある。作文学習は、1年生以外はおよそ半数近くが「嫌い」と答えており、中でも、高学年の作文学習に対する苦手意識が高い。

作文が嫌いな理由としては、「書くことが難しい」と感じている児童が多く、「読まれるのが恥ずかしい」や「何を書けばいいのかわからない」といった記述がみられた。

今後は、①作文の書き方の系統的な指導②原稿用紙の使い方（句読点の打ち方や「」の使い方、改行の仕方など）③条件に合った作文の書き方などの指導に力を入れていく必要がある。

# 研究のまとめ

## I ブロック反省

<低学年>

- ・成果として型「～は、～です。」はできていた。
- ・課題として、作文用紙の使い方、作文の構成（話の全体像が見えていない、詳しく書けない）、話し言葉と書き言葉（違いがわからない）などがあがった。
- ・解決策として、交流（話し合い）がもっと必要であると感じた。

<中学年>

- ・意識的に書くことができた。
- ・はじめ、なか、終わりができていた。
- ・書くためには、「読むこと（把握力）」や前段階の指導が大切であると感じた。

<高学年>

- ・「書くこと」に苦手意識がある。
- ・自分の伝えたいことを、制限時間内に書くことが課題。
- ・系統性を追っていくことも大事。
- ・原稿用紙の使い方、文章の書き方に取り組む必要がある。朝学習を活用するのもよいのでは。

<教務部>

- ・読み通して、推敲する力が大事。
- ・何を書いていいかわからない児童がいる。
- ・短作文の積み重ねをしていく必要がある。

## II 次年度に向けて

(1) 令和3年度、4年度の校内課題研究構想

研究主任

○なぜ作文力

- ・全国学力テスト・県学力テストの結果から、記述式の問題に課題があることが分かった。
- ・意識調査の結果では、作文への苦手意識が強いことが分かる。  
理由は「書くことが難しい」「何を書けばいいのか分からない」

○令和2年度校内研究

試行錯誤しながら、「条件作文解決能力」向上の研究を行った。

※2つの要素が混在していた気がします。

①条件作文解決能力：学力テスト（知識⇒活用）にも対応できる力

キーワードを用いた問いに正対する文を字数制限がある中で書く。

→ 字数がある中で、要約するなどの授業

②構成を意識した文作り：書く力 → 主語・述語 はじめ・中・終わり 文章構成

○伸ばしたいのは書く力・苦手意識を軽くする

書くことに慣れる(日記・行事作文)

良い文に触れる・・・放送(毎月1学年)/掲示・作文コーナー

読み合う

興味関心を持って活動できる題材・目標・相手意識の工夫

書くことの学習過程(取材-構成-記述-推敲-交流)に沿った段階的な指導の工夫

例文・型の掲示/構成メモの工夫

学習形態

(案) 主題「書く力の向上を目指す国語科学習」

仮説①子供が興味関心を持つような言語活動の場を設定し、②「書くこと」の系統化を図り、③発達段階や個に応じた段階的な指導や評価を工夫すれば、書く力を伸ばせるであろう。

取り組みの1つとして「条件作文解決能力」を組み込むのはどうでしょうか。

(2)

～令和3・4年度 堀兼小学校 校内課題研究の枠組み～

教頭

(提言は、狭山市学力向上茶レンジ・プランより)

○テーマ：書く力の育成

○そもそもなぜ「書く」なの? : 別紙資料参照

○明らかにすること：書く力を伸ばすためには・・・

令和2年度の結果考察から、「書く」だけでは…

これが仮説に…

① 対話的な深い学びが不可欠である。(提言5)

② 当然のことながら学習規律(提言1)、基礎基本(提言7)も大事(規律ある態度・生徒指導面も)

○研究のGOAL：研究としては、上記の仮説①②を、実践記録を揃えて証明すればよい。

結果として、児童が条件作文を書けるようになればよい。

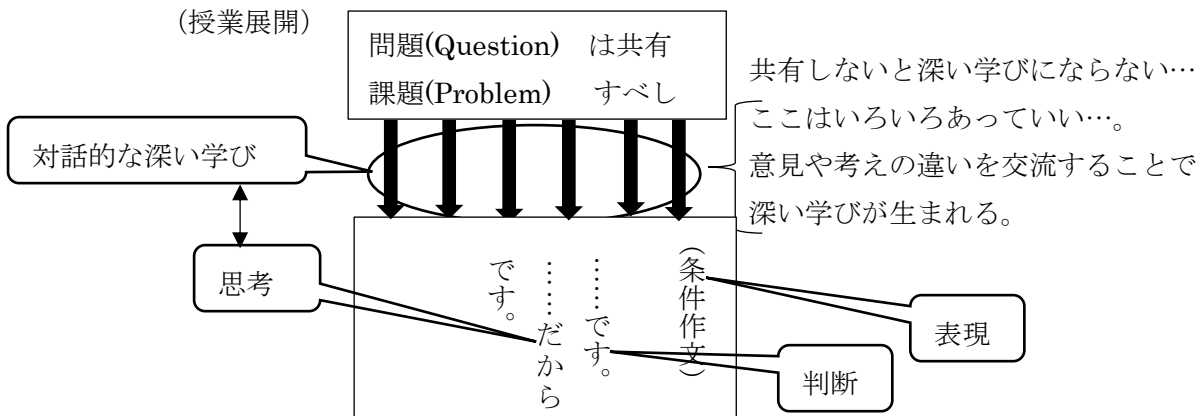
⇒1キーワードを見つけて用い、2相応しい内容で、3字数(及び時間)制限内に書く

○研究内容①(提言5) あらゆる教科の授業を通して・・・

・指導訪問で…「研究との関わり」を必ず指導案に入れる。

・研究授業は国語科で…書く単元に拘るとむしろ的が外れることも…。むしろ対話的な深い学びを。

(授業展開)



※研究協議は、授業者の授業うんぬんではなく、児童の作文から、我々教員が研究の視点から見出したことを討議する。研究授業については、外部指導者からご指導いただく。

研究内容② 日常の学習規律（提言1）⇒自己申告達成状況調査（職員の意識調査）・規律ある態度

研究内容③ 基礎基本（提言7）⇒朝学習の取組「eライブラリ」「条件作文」「SSVCとの連携」

○検証記録 分析資料は通常の資料内で行う。敢えて付加しない。

<量的アプローチ>

1：全国、県、地区学力テストの「書く」「記述」に着目した結果分析【担当：調査統計部】

2：自己申告達成状況調査【担当：教頭】

3：規律ある態度・いじめ解消率・不登校状況【担当：教務主任・生徒指導主任】

<質的アプローチ>

1：研究授業で児童が記述した条件作文からの考察【担当：全職員】

2：R3年度学校指導訪問で他教科での「書く」指導案（展開）【担当：研推】

3：学年 or ブロック別の条件作文ワークシート集（お題を集約する）【担当：教材開発部】

4：SSVCの関わりの記録（丸付けの様子写真や1年の振り返りの言葉）【教務主任】

○研究スケジュール

令和3年度

1 学期	夏休	2 学期	3 学期
研究体制確立 諸学力テスト 自己申告達成状況調査①	指導訪問	3年度諸学力調査結果報告会 授業研究会①	自己申告達成状況調査③ 授業研究会② 自己申告達成状況調査②

令和4年度

1 学期	夏休	2 学期	3 学期
研究体制再調整 諸学力テスト 自己申告達成状況調査① 授業研究会①	4年度諸学力調査結果報告会	研究発表会②③ 自己申告達成状況調査②	自己申告達成状況調査③ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">             令和5年度学力調査              結果までが研究           </div>

### ○研究組織

- ・外部指導者：市教委指導主事（小学国語担当）、他1名 研究授業の指導・助言
- ・校内指導者：校長 研究の全体指導、授業者への指導・助言
- ・研究推進委員長：外部との調整、研究の運営
- ・研究主任：研究の提案
- ・研究部（例）

} この連携が重要！

授業研究部：担任

調査統計部：教頭、教務部

教材開発部：教務主任、担任

【参考】令和3年度学校指導訪問 特に指導を受けたい内容 から

「狭山市茶レンジ・プラン」に基づいた学習指導

- ① 授業の規律：「提言1」、学びの土台となる学習規律10項目について
- ② 授業の展開：「提言5」、主体的・対話的で深い学びの実践について
- ③ 授業の工夫：「提言3」、ユニバーサルデザインやICT活用について

## Ⅲ さいごに

この研究を進めていくにあたり、一番大事なことは、児童が成長を実感でき、みんな笑顔になることです。そして、研究を通して「チーム堀兼小」を築いていくことです。この一年の反省を基に、課題については改善していき、次年度以降さらに研究を推し進めていきましょう。そうすれば、自ずと結果が現れ、児童も笑顔であふれてくるでしょう。なお、狭山市立教育センター 先生におかれましては、ご多用の中、多大なるご尽力をいただきました。ここに、狭山市立堀兼小学校教職員一同、感謝を申し上げます。ありがとうございました。



狭山市立堀兼小学校  
校長



第1学年1組 国語科学習指導案

令和2年10月29日

授業者

<b>研究主題</b> ：「条件作文解決能力を高める国語科学習」
<b>単元名</b> ：「しらせたいな、見せたいな」
<b>めあて</b> ：カードのことばを くわしい文にへんしんさせよう。
<b>提示条件</b>
<b>① 作文の型</b> ・「～は(が)、～です。」に当てはめて、1文に1つの事柄を書く。(その後、説明の付け足し文を書く。) ※ ( ) は発展
<b>② 正対した文(詳しく説明する文)</b> ・めは、くろくて小さいです。(ゆっくりまばたきをします。) ・からだキラキラひかります。(およぐと、ときどき、青やむらさきにも見えます。) ・けは、くろくてふわふわです。(おしりのほうは、はいいろのけもはえています。)
<b>③ 説明する事柄の数</b> ・3つ以上の事柄を扱う
<b>展開と評価</b> ※作文：丸数字
1 前時の学習を振り返り、本時の学習課題を理解する。 2 例文を音読する。 3 カードから、詳しい文を書く方法を確かめる。 ④ カードに書いている言葉を選んで、詳しい文を書く。 【評価規準】提示条件に則して書いている。 主語・述語を対応させながら、1文に1つの事柄を書くことができる。 A 規準の判断：説明の付け足し文を加えて書いている。 C 規準の支援：・目がどんな形か、体は何色だったか、カードを手がかりに、個に応じた指導をする。 ・1文に1つの事柄を書けるように指導する。 5 出来上がった詳しい文を読み合う。 6 本時の振り返りと次時の学習について理解する。
<b>主な指導の工夫</b> ・カードと文を対応させた掲示資料 ・事柄ごとに作文できる短冊用紙 ・互いの出来栄を確認し合える時間の確保
<b>備考</b> ・わくわく支援員が指導補助に入る。 ☆詳しく説明するための言葉を工夫し(語彙力を高める)、自分の言葉でまとめる良さや達成感を味わわせたい。

第2学年2組 国語科学習指導案

令和2年12月2日

授業者

<b>研究主題</b> ：「条件作文解決能力を高める国語科学習」
<b>単元名</b> ：「お話のさくしゃになろう」
<b>めあて</b> ：中のできごとを考え、お話を書こう。
<b>提示条件</b>
① <b>作文の型</b> ・主語・述語を使用した文 ・会話文で「」を使う ・（「話すこと」を表す言葉を場面によって使い分ける） ※（ ）は発展
② <b>基準となる文</b> ・ねずみはふくろうにたずねました。（どの人物が何をした。（主語・述語）） ・「秋の木の実はどこにあるのですか。」（「」を使って会話文を書く。） ※（・〇〇とたずねました。）（・〇〇と答えました。）（・〇〇と聞きました。） （・〇〇に伝えました。）（〇〇とさげびました。）
③ <b>字数制限</b> ・無し
④ <b>時間制限</b> ・無し
<b>展開と評価</b> ※作文：丸数字
1 前時の学習を振り返り、本時の学習課題を理解する。 2 様子がよく分かる言葉の確認をする。 3 大きな出来事（展開）を書く。 4 人物の動きやセリフ、話すことを入れた文を作る。 【評価規準】主語・述語や「」を使用して書いている。 A 規準の判断：「話すこと」を表す言葉を豊富に使用して書いている。 C 規準の支援：・誰が何をしたのかを口頭で確認し、個に応じた指導をする。 ・例文を紹介し、文章の作り方を指導する。 5 中の文章を作る。 6 本時の振り返りと次時の学習について理解する。
<b>主な指導の工夫</b>
・作文を書く上で大切な言葉を掲示する。 ・児童の思考を整理し、まとめるためのプリントを作成する。
<b>備考</b>

第3学年1組 国語科学習指導案

令和2年11月2日

授業者

<b>研究主題</b> ：「条件作文解決能力を高める国語科学習」
<b>単元名</b> ：食べ物のひみつ教えます
<b>めあて</b> ：「すがたをかえる大豆」で学習したことを生かして、分かりやすい説明文を書こう。
<b>提示条件</b>
<b>① 引用単語</b> ・順序を表す接続詞 「はじめに」「まず」「次に」「また」「さらに」「一つ目は」「二つ目は」「これらの他に」 「一番わかりやすいのは」「このように」「他にも」
<b>② 問いに正対した文</b> 段落を分ける。「はじめ」「中（3～5）」「終わり」の5～7段落 ・「はじめ」の段落には、話題文を書く。 ・「中」の各段落は、「工夫」→「例」の順に文章を書く。 ・「中」は、分かりやすい順にし、順序を表す接続詞を適切に使う。 ・「終わり」の段落は、「このように」を使う。
<b>② 字数制限</b> 縦27文字の原稿用紙を利用する。（題名・名前は書かない） ・「中3（3内容）」15行程度 4内容20行程度 5内容25行程度
<b>④ 時間制限</b> ・20～30分、下書き（本時）→自分の文を見直す。
<b>展開と評価</b> ※作文：丸数字
1 前時の学習を振り返り、本時の学習課題を理解する。 2 分かりやすい説明文になるように、注意することやおよその字数を知る。 ③ 原稿用紙に下書きをする。 【評価規準】調べた食品について、条件に則して書いている。 A 規準の判断：順序を表す接続詞を正しく使い、分かりやすく書いている。 （4内容以上、6段落） B : 順序を表す接続詞を正しく使い、書いている。（3内容以上、5段落） C 規準の支援：教科書P54の教材文を参考に自分が調べたことを文にする。 4 出来上がった説明文を発表する。（段落ごと～全文） 6 本時の振り返りと次時の学習について理解する。
<b>主な指導の工夫</b> ・順序を表す接続詞のカードを使い仲間分け ・教科書P54の教材文（拡大）
<b>備考</b>

第3学年2組 国語科学習指導案

令和2年10月26日

授業者

<b>研究主題</b> ：「条件作文解決能力を高める国語科学習」
<b>単元名</b> ：「食べ物のひみつ教えます」（「すがたをかえる〇〇」）
<b>めあて</b> ：「すがたをかえる大豆」で学習したことを生かして、分かりやすい説明文を書こう。
<b>提示条件</b>
<b>①引用単語</b> ・順序を表す接続詞 「はじめに」「まず」「次に」「また」「さらに」「一つ目は」「二つ目は」 （「一番わかりやすいのは」「このように」）
<b>②問いに正対した文</b> ・段落を分ける。「はじめ」「中（3～5）」「終わり」の5～7段落 ・「はじめ」の段落には、話題文を書く。 ・「中」の各段落は、「工夫」→「例」の順に文章を書く。 ・「中」は、分かりやすい順にし、順序を表す接続詞を適切に使う。 ・「終わり」の段落は、「このように」を使う。
<b>③字数制限</b> ※縦20文字の原稿用紙を利用する。 ・「中3（3内容）」15行程度 4内容20行程度 5内容25行程度
<b>④時間制限</b> ・特に設けないが、下書き（本時）→推敲（読み合い）→清書に各1単位時間設定する。
<b>展開と評価</b> ※作文：丸数字
1 前時の学習を振り返り、本時の学習課題を理解する。 2 分かりやすい説明文になるよう、注意することやおよその字数を知る。 ③ 原稿用紙、ノートを使い、下書きをする。 <b>【評価規準】</b> 調べた食品について、提示条件に則して書いている。 A規準の判断：順序を表す接続詞を正しく使い、分かりやすく書いている。 （4内容以上、6段落） B : 順序を表す接続詞を正しく使い、書いている。（3内容以上、5段落） C規準の支援：教科書P54の教材文を参考にさせる。 4 出来上がった説明文を発表する。（段落ごと～全文） 6 本時の振り返りと次時の学習について理解する。
<b>主な指導の工夫</b>
・順序を表す接続詞の仲間分け ・教科書P54の教材文（拡大）
<b>備考</b>
・情緒的な面で配慮を要する児童あり

第4学年1組 国語科学習指導案

令和2年10月22日

授業者

<b>研究主題</b> ：「条件作文解決能力を高める国語科学習」
<b>単元名</b> ：「世界にほこる和紙」
<b>めあて</b> ：中心となる語や文を見つけて要約しよう。
<b>提示条件</b>
① <b>・キーワード ○キーセンテンス</b> ・和紙のよさ（やぶれにくい、長持ちする）○自分の気持ちを表す方法 ○筆者の問いと考え
② <b>和紙のよさを表す文</b> ・洋紙とくらべて、やぶれにくく、長もちする ・和紙の風合いを美しいと感じ、自分の気持ちを表す方法の一つ
③ <b>字数制限</b> ・200字以上400字以内
④ <b>時間制限</b> ・40分以内
<b>展開と評価</b> ※作文：丸数字
1 前時の学習を振り返り、本時の学習課題を理解する。 2 要約に必要なキーワード、キーセンテンス、段落を確認する。 3 要約をするための書き方を確認する。  【評価規準】「世界にほこる和紙」の要約について提示条件に則して書いている。 A 規準の判断：「書き出し文—要約—自分の意見」の段落構成で書くことができる。 C 規準の支援：・龍の巻を使ってまとめる。 ・引用単語を使う個所を助言し、文章の作り方を指導する。 4 出来上がった要約について読み返す。 5 本時の振り返りと次時の学習について理解する。
<b>主な指導の工夫</b>
・要約するためのキーワードやキーセンテンスの確認 ・要約するための型の提示 ・互いの出来栄を確認し合えるペア学習
<b>備考</b>
・付箋を用意する。

第4学年2組 国語科学習指導案

令和2年12月9日

授業者

<b>研究主題</b> ：「条件作文解決能力を高める国語科学習」
<b>単元名</b> ：「プラタナスの木」
<b>めあて</b> ：プラタナスの木のみによくについて考えよう。
<b>提示条件</b>
<b>①作文の型</b> 「初めに」 「次に」 「さらに」 「最後に」 段落構成の順序
<b>②みりよくを伝える文</b> ・プラタナスの木の内容でみりよく的な部分を探しまとめる。 ・段落構成や表現方法を考える。 ・相手に伝えたいことを文章にする。
<b>③字数制限</b> ・200～400字以内
<b>④時間制限</b> ・20分以内
<b>展開と評価</b> ※作文：丸数字
1 前時の学習を振り返り、本時の学習課題を理解する。 2 文章の構成の仕方や一番印象に残った（みりよくを感じた）部分を確認する。 3 作文の内容を考える。 ④ 相手にみりよくが伝わるように文章を作成する。 【評価規準】みりよくについて考え、文章構成が順序良くできている。 A 規準の判断：「初め」「中」「終わり」の文章構成をしっかりと押さえ、主語・述語の使い分けや話の展開に工夫がみられる。 C 規準の支援：文章の構成に関して助言し、「初め」「中」「終わり」の構成にする。 5 出来上がった文章を読み返し、近くの友達と読みあいをする。 6 友達からのアドバイスを聞いて、訂正があればその場で訂正する。 7 本時の振り返りと次時の学習について理解する。
<b>主な指導の工夫</b>
・みりよくを感じた部分を授業の初めに確認する。 ・視覚的に学習の見通しができる掲示資料。 ・作成途中に机間指導を通して、助言する。
<b>備考</b>



第5学年1組 国語科学習指導案

令和3年1月18日

授業者

<b>研究主題</b> ：「条件作文解決能力を高める国語科学習」
<b>単元名</b> ：「この本おすすめします」
<b>めあて</b> ：下書きを読みあい、友達からアドバイスをもらおう。
<b>提示条件</b>
<b>① 文章構成</b> ・見出し、本の情報、本の紹介、推薦する理由、呼びかけの5つで構成されているか。
<b>② 相手に伝わりやすい文章を書く</b> ・読む相手を考え、難しい言葉、誤字脱字、句読点に気を付けているか。
<b>③ 字数制限</b> ・300字以内
<b>指導計画</b> ※本時：丸数字 1 学習の見通しを持つ 2 本の内容やおすすめ理由をワークシートに書き出す。⇒ 友達と読み合う。 3・4 下書きをする。 ⑤ 下書きを友達と読み合う。⇒ 助言しあう。 6 清書をする。 7 推薦する文書を読み合い、感想を伝え合う。
<b>展開と評価</b> ※作文：丸数字 1 前時の学習を振り返り、本時の学習課題を理解する。 2 下書きをグループで読み合う。 ③ 友達の下書きを読み、用紙に助言を書く。 (参考にしたいところは、ワークシートに記入しておく。) 【評価規準】下書きを読み、相手や目的を意識しながら、書き方について助言している。 A 規準の判断：相手や目的を意識しながら、書き方について助言している。 C 規準の支援：わからない言葉があればそれを助言として書くように伝える。 4 助言の用紙を読んで、友達に渡す。 5 もらった用紙を参考に、青鉛筆で下書きを直す。 6 本時の振り返りと次時の学習について理解する。
<b>主な指導の工夫</b> ・視覚的に学習の見通しができる掲示資料 ・友達と読み合い助言をもらい、推薦する文書を「書く」ことの、自信につながるグループ学習。
<b>備考</b>

第6学年1組 国語科学習指導案

令和3年2月2日

授業者

<b>研究主題</b> ：「条件作文解決能力を高める国語科学習」
<b>単元名</b> ：「メディアと人間社会 大切な人と深くつながるために」
<b>めあて</b> ：3人の筆者の考えのもとに、「これからの社会でどう生きていくか」について、意見をまとめよう。
<b>提示条件</b>
<b>①引用単語</b> ・3人の筆者の考えから、共感する部分や反対だと思う部分を引用する。
<b>②問いに正対した文（例文）</b> 鴻上さんが言うように、人と人とのつながりは今でも少ないのに、これからの社会では、もっと少なくなります。私は、池上さんと同じように、人は一人では生きられないと思うので、友達や家族とのコミュニケーションをたくさんとるように、頑張っていきたいと思います。
<b>③字数制限</b> ・100～150字程度
<b>④時間制限</b> ・15分以内
<b>展開と評価</b> ※作文：丸数字
1 前時の学習を振り返り、本時の学習課題を理解する。 2 「プログラミングで未来を創る」を音読する。 3 「プログラミングで未来を創る」について、筆者の考えの引用できそうな部分を見つける。 ④ 「これからの社会でどう生きていくか」というテーマについて、筆者の考えを示しながら、自分の考えをまとめる。 【評価規準】「これからの社会でどう生きていくか」というテーマについて、提示条件に則して書いている。 A 規準の判断：複数の文章を比較して考えたことに基づいて、自分の考えをまとめている。 C 規準の支援：最も気になる文章を対象に、引用部分をどこにするかを個別に助言し、自分の考えが書けるように支援する。 5 書いた文章を読み返す。 6 本時の振り返りと次時の学習について理解する。
<b>主な指導の工夫</b> ・3人の筆者の文章の引用できる部分に傍線を引かせることで、考えをまとめることができるようにする。 ・視覚的に学習の見通しをもつことができるよう、掲示資料を用意する。
<b>備考</b>

## 第6学年2組 国語科学習指導案

令和3年2月1日

授業者

<b>研究主題</b> ：「条件作文解決能力を高める国語科学習」
<b>単元名</b> ：「メディアと人間社会 大切な人と深くつながるために」
<b>めあて</b> ：3人の筆者の考えと自分の考えを比べながら「これからの社会でどう生きていくか」について考え、自分の意見をまとめて書こう。
<b>提示条件</b>
<b>① 引用単語</b> ・自分の考えと比べられるような3人の筆者の考えを示して引用する。
<b>② 問いに正対した文（例文）</b> 鴻上さんが言うように、人と人とのつながりは今でも少ないのに、これからの社会では、もっと少なくなります。私は、池上さんと同じように、人は一人では生きられないと思うので、友達や家族とのコミュニケーションをたくさんとるように頑張っていきたいと思います。
<b>② 字数制限</b> ・100～200字程度
<b>③ 時間制限</b> ・20分程度
<b>展開と評価</b> ※作文：丸数字
1 前時の学習を振り返り、本時の学習課題を理解する。 2 「プログラミングで未来を創る」の中で、自分の考えと共感するところに青線を引く。 ③ 「これからの社会でどう生きていくか」というテーマについて、筆者の考えを示しながら、自分の考えをまとめて書く。 【評価規準】「これからの社会でどう生きていくか」というテーマについて、提示条件に則して書いている。 A規準の判断：複数の文章を比較して考えたことに基づいて、自分の考えをまとめている。 C規準の支援：最も気になる文章を対象に引用文章をどこにするか個別に助言し、自分の考えが書けるように指導する。
4 書いた文章を読み返す。 5 何人かの児童に発表してもらい、次時の学習につなげる。
<b>主な指導の工夫</b> ・意見形成に必要な部分や筆者の考えに傍線を引かせることで、考えをまとめやすくする。 ・視覚的に学習の見通しができる掲示資料 ・友達と伝え合うことで物事を多面的にとらえられるようにしたり、自分の文章と比較したりできるようにする。
<b>備考</b>

# くすのき学級 国語科学習指導案

令和3年1月29日（金）5時間目

授業者

<b>研究主題</b> ：「条件作文解決能力を高める国語科学習」
<b>単元名</b> ：「?ボックス」の中から何が出てくるかな？
<b>めあて</b> ：「?ボックス」の中から何が出てきたかな。先生はそれをどうしたかな。よく見て書こう。
<b>提示条件</b>
① <b>引用単語</b> ・初めに・次に・最後に（感想） ※（ ）は発展
② <b>問いに正対した文</b> ・初めに、先生は「?ボックス」の中から、〇〇を出して、～した。 ・次に、先生は「?ボックス」の中から、〇〇を出して、～た。 ・最後に、先生は「?ボックス」の中から、〇〇を出して、～した。 わたし（ぼく）は、～と思った。
② <b>字数制限</b> ・字数制限はなし。
③ <b>時間制限</b> ・初めに～7分・次に～7分・最後に～7分・ 合計21分
<b>展開と評価</b> ※作文：丸数字
1 言葉遊びをする。 2 本時の学習課題を理解する。 ④ 担任の様子をよく見て・初めに～の部分を書く。 ⑤ 担任の様子をよく見て・次に～の部分を書く。 ⑤ 担任の様子をよく見て・最後に～の部分を書く。 【評価規準】担任の様子をよく見て、順序良く、提示された物について書いている。 A 規準の判断：最後に、の後に（感想）を付け加えて書いている。 C 規準の支援：・出てきた物を思い出させて文にする指導をする。 ・接続後は、初めから入れておき、文章の作り方を指導する。
6 出来上がった自分の文章を発表する。 7 本時の振り返りと次時の学習について理解する。
<b>主な指導の工夫</b>
・何が出てくるのか期待するような提示の仕方の工夫。 ・視覚的に1時間の学習の見通しができる掲示資料 ・集中力をとぎれさせない演出の工夫。
<b>備考</b>
・介助員が指導補助に入る。